

橘小学校等複合化整備構想《概要版》

1 整備構想策定の背景と目的

背景 1

- 名古屋市の方針
 - ・良好で質の高い学びを実現する環境の整備とともに、市全体の公有財産の有効活用を図るため、学校施設と公的施設等との複合化に取り組む
- 国の方針
 - ・小学校などにおける学びの場を拠点とした地域コミュニティ形成の推進
 - ・学校と社会教育施設等との複合化の促進

背景 2

- 橘小学校
 - ・児童数に比して運動場が狭小
 - ・児童数の増加により教室不足が発生
 - 中生涯学習センター
 - 前津福祉会館
 - 前津児童館
- 市民利用施設
- ・いずれも建築から40年以上経過しており大規模な整備を検討する時期

目的

橘小学校と周辺の公共施設である中生涯学習センター、前津福祉会館、前津児童館を複合化して整備することで

「様々な世代の人々がふれあう、学びあう、つながりあう、新たな地域コミュニティの拠点」の実現を図る

2 複合化整備の概要

■ 整備場所

橘小学校敷地
(名古屋市中区橘一丁目13番12号)

■ スケジュール(予定)

時期	事項
令和3年度	整備構想策定
令和4年度	整備計画策定
令和5年度 ～6年度	公募要項作成 事業者選定
令和7年度	複合施設設計 仮設校舎建設(※1)
令和8年度 ～10年度	複合施設建設 仮設校舎での学校運営 期間(※1)
令和11年度	複合施設供用開始 仮設校舎解体(※1)

※1 複合施設の建設工事は大規模な工事となることから、複合施設建設期間中は橘小学校敷地外に仮設校舎を設置して橘小学校の学校運営を行います。

※2 このスケジュールは、PPP/PFI手法の導入を想定した場合のスケジュールです。

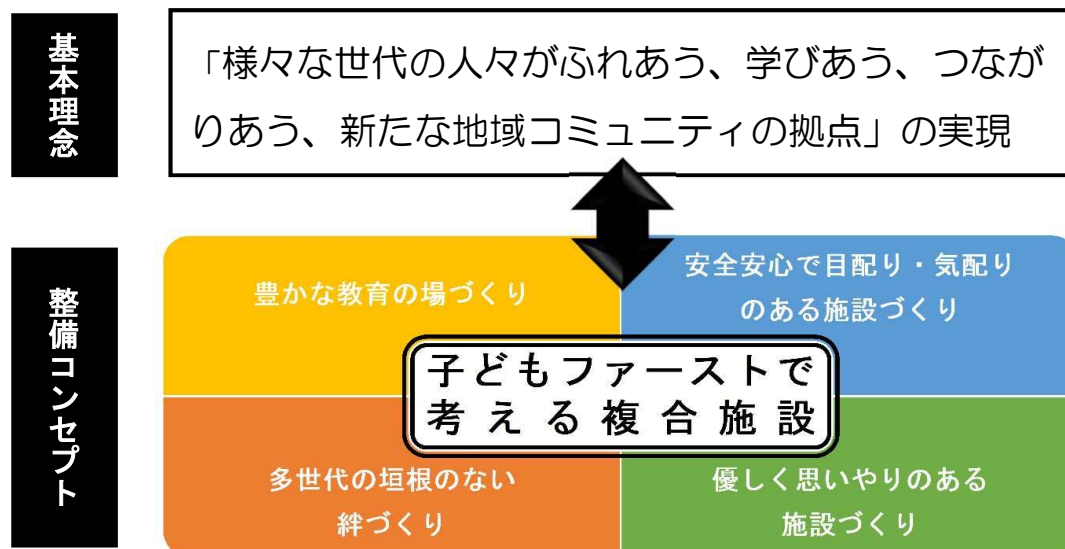


地下鉄駅からのアクセス

名古屋都市計画基本図(平成27・28年)を加工して作成

3-1 整備コンセプト

- 安全・安心で質の高い教育環境を実現します
- 子どもたちの育ちや、幅広い世代の学びや福祉に資する施設を整備します
- 防災機能を強化します



3-2 整備方針

- 各施設の類似・重複する機能（部屋）の共有・統合を検討します
- 市民目線・利用者目線に立った効率的で一体的な運営・管理をめざします
- 将来の用途転用を行いやすくするような柔軟な設計、整備手法の導入を検討します

共通	○人々がふれあい、絆が深まる、優しく思いやりのある施設づくり ○安全・安心な施設づくり ○周辺環境に配慮した施設づくり ○脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な施設づくり
学校	○行きたくなる学校づくり ○子どもたち一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びが促進される学校づくり ○交流や学びあいを通じ、様々な発見や体験ができる学校づくり ○安全・安心な学校づくり ○子どもたちに豊かな放課後を提供する学校づくり
生涯学習 センター	○質が高い学びが保障され、多様な学習ニーズに応える学びの場づくり ○新たな交流により創出された学びを活用できる場づくり ○誰もが気軽に生涯にわたる学びやスポーツ・レクリエーションを楽しめる施設づくり ○誰もが気軽に生涯学習を親しむことができる施設づくり
福祉 会館	- 高齢者が新しい趣味づくりや、仲間づくりといったシニアライフを充実させ、好きな時に気軽に来て、自由に過ごしたくなる福祉会館づくり ○気軽に立ち寄ることができる、出かけたくするような福祉会館づくり ○新しい魅力にあふれる福祉会館づくり ○様々な世代とふれあうことで、生きがいを持てる福祉会館づくり ○利用者に優しく思いやりのある福祉会館づくり
児童館	- 乳幼児期から中高生世代までの全ての子どもが魅力を感じられる児童館づくり ○子どもが自ら利用したくなり、自由にのびのびと遊べる児童館づくり ○中高生世代にとって居場所としての魅力があふれる児童館づくり ○様々な体験や交流を生みだし、子どもが自身で成長していく児童館づくり ○子どもが抱える悩み等に気づき、適切な対応をしていける児童館づくり ○すべての利用者が安全・安心で快適に過ごせる環境整備

4-1 施設・ゾーン配置の考え方

■可能な限り広い運動場の確保

⇒敷地南側に半地下型の体育館を整備、その上部に人工地盤の運動場を整備

校舎棟は敷地北側に配置、地下1階、地上5階建ての規模

■限られた敷地条件への対応

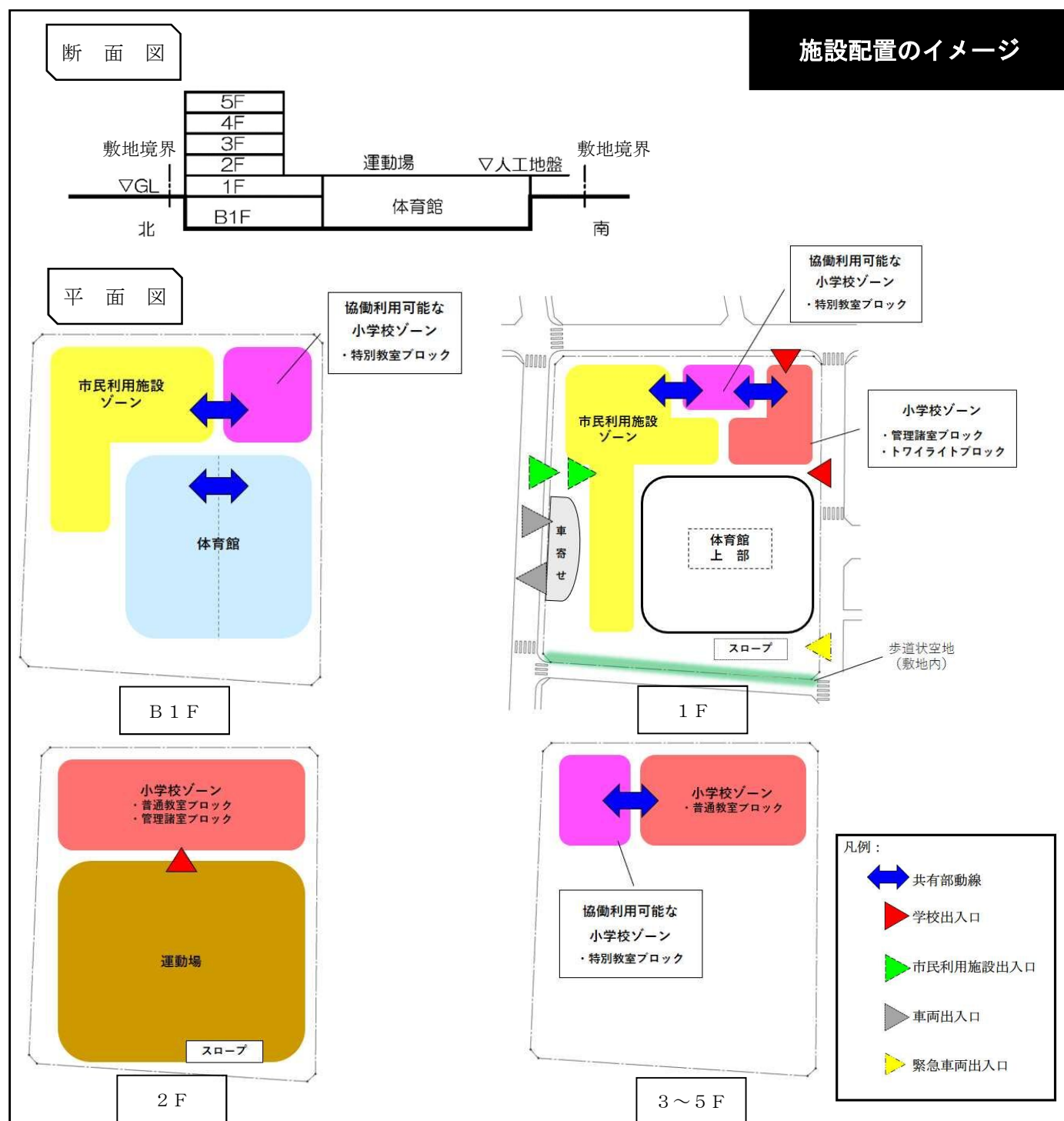
⇒敷地内の駐車場とは別に駐車スペースの確保を検討

学校プールの整備は行わず民間プールを活用

■児童の居住状況を踏まえたゾーン配置

⇒多くの児童が居住する東側に小学校ゾーンを配置し、市民利用施設ゾーンを西側に配置

学校と各市民利用施設の動線が交錯しないよう配慮し、セキュリティを確保



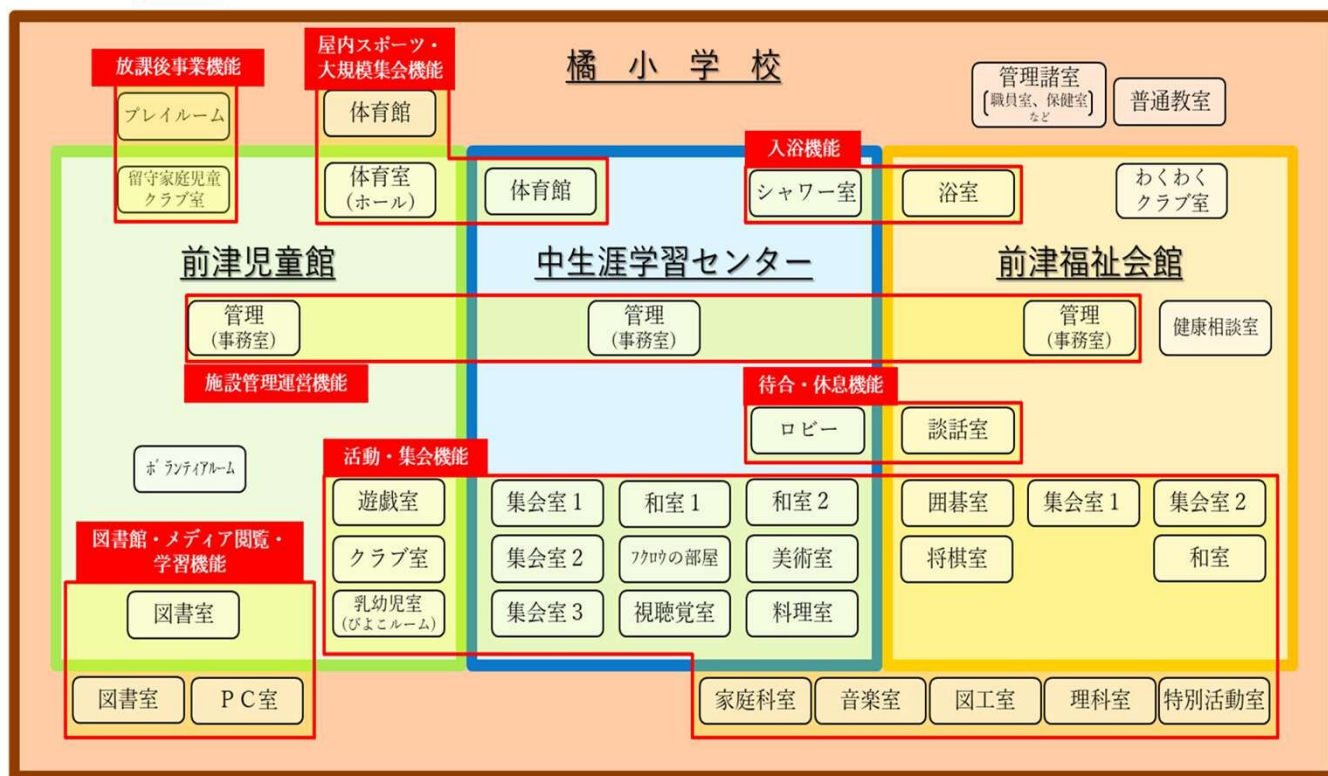
4-2 複合施設における機能（部屋）の考え方

橘小学校、生涯学習センター、前津福祉会館及び前津児童館における現状の主な部屋と、そのうち、機能が類似・重複する部屋を図示しました。

今後、利用実態や利用状況などを踏まえ、必要な機能の整理を行い、部屋の共有化や部屋の必要数、事業の連携などを検討します。

市民等とのワークショップ・意見交換会などでいただいた様々なアイデアなどを踏まえ、複合施設に求められる新たなニーズへの対応についても検討を行います。

* 凡例 …… : 類似・重複する機能を有する部屋



5 複合化に向けた事業手法の検討

「名古屋市PPP/PFI手法導入優先的検討指針」に基づき、行政が施設整備を行い、行政が運営するという従来方式と民間活力が活用できる事業手法について比較検討します。今後、計画内容や事業性を加味し、費用対効果やスケジュールの検討を重ねていきます。

《現時点で検討の対象となる事業手法》

⇒ DB(DB+O)方式 又は BTO方式 (PFI事業)

区分	内 容
従来方式	市が資金調達を行い、施設整備も市が直接実施し、施設の運営、維持管理については、直営または別途指定管理者を選定する方式。
DB(DB+O)方式	市が資金調達を行い、設計（Design）・建設（Build）を一括発注する方式。施設の運営、維持管理（Operate）は直営又は別途指定管理者を選定する。
BTO方式	民間事業者が資金調達を行い、公共施設等の設計・建設（Build）を行った後、その施設の所有権を市側に譲渡（Transfer）した上で、契約期間にわたりその施設の運営、維持管理（Operate）を行う方式。

橘小学校等複合化整備構想《概要版》

策定 令和4年3月

発行 名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 052-972-3226 ファックス 052-972-4176

このリーフレットは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。